

第20回

日本応用老年学会大会

人生100年時代の生き方・終わり方
-2050年を見据えて-

-会期-

2025年

11月8日(土)

11月9日(日)

-会場-

東北文化学園大学
(仙台市青葉区国見6-45-1)

-大会長-

吉田 裕人

(東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科 教授)

基調講演 11 月 8 日(土) 13:00~14:00 1 号館 1F 階段教室 1

「マクロ的に見た日本・東北の現状と将来」

本大会は、長寿社会によって長くなった高齢期における生き方、そして終わりの迎え方を主題としておりますが、これに提言すべく、基調講演では高齢化・過疎化等の課題先進地域である東北の現状を通じて、日本の将来を概観します。

コーディネーター：吉田裕人（東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科 教授）

司会：加藤 由美（東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科 教授）

講演：吉田 浩（東北大学大学院経済学研究科 教授）



吉田 浩 氏

シンポジウム

I. 高齢期の経済的自立・well-being のために 生き方ーお金・家・生きがいー

11 月 9 日(日) 10:00~12:00 1 号館 1F 階段教室 1

コーディネーター・座長：藤原佳典、吉田裕人、田邊裕靖

- ① 前田 展弘（ニッセイ基礎研究所 上席研究員）
- ② 伊藤 美由紀（東北工業大学ライフデザイン学部 准教授）
- ③ 伊藤 文人（東北大学大学院教育学研究科 講師）
- ④ 鎌田 裕次郎・高谷 新悟（税理士法人クラフトマン 税理士）

「老後 2,000 万円問題」が世の中を騒がしたのは記憶に新しいですが、これは長い高齢期があつてこそです。相続がされずに空き家が増えている問題などを踏まえ、資産運用はいかにすべきかなどの経済的問題に対応する必要があります（「お金」、「家」）。そのためには、仕事・趣味を持って外出するなどして（「生きがい」）孤独・孤立を防ぎ、健康・自立を維持しなければなりません。ここでは高齢期の「お金」がいかに諸課題に関連しているかを把握し、その解決策を探ります。

II. 人生の終わり方 穏やかな終わり方のために

11 月 8 日(土) 16:00~18:00 1 号館 1F 階段教室 1

コーディネーター：古林俊晃（東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科 教授）

- ① 古林 俊晃（東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科 教授）
- ② 今野まゆみ（ホームホスピスにじいろのいえ 代表）
- ③ 高橋悦堂（曹洞宗僧侶 認定臨床宗教師）
- ④ 千葉明日香（長町南クリニック 医師）

死は誰にも訪れる避けがたい現実であり、人生の「終わり方」をいかに準備し、受容するかは、現代においてますます重要な課題となっています。QOD（Quality of Death）は、終末期医療の充実だけでなく、精神的・宗教的支援をも包含し、死にゆく過程をいかに尊厳あるものにするかを問うものです。死を人生の一部と受け入れるために、この視点は欠かせません。本シンポジウムではその意味を問い合わせてみようと思います。本大会が、東日本大震災の被災地・仙台において、生と死の意味を考える機会となることを願っています。

ミニ講演 11 月 9 日(日) 午後

アイ（eye）フレイルとは 小野 峰子（東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科 教授）

加齢による目の衰えは、高齢期に QOL を低下させる大きな要因の一つです。ここでは、アイフレイルや緑内障をチェックしていただき、その予防などについて解説してもらいます。緑内障チェック等、展示・体験コーナーと合わせてご参加ください。

11/9 (日) 、事前予約の一般の参加者は公開（無料）とさせていただきます。

（シンポジウム、緑内障チェック、老後資金・相続の相談など展示体験コーナー、警察犬デモンストレーションなど）



申込みはこちら